

―集約的な紙・パルプ産業が盛んだ。

ニューファンドランドでは、六〇年代七〇年代を通じて数多くの水力発電開発計画が実施されてきたが、特に一九七四年に完成したチャーチル川（ラブラドル中部）の電源開発プロジェクトは、当時としてはカナダ史上最大のもので、しかも民間ベースで行われる世界最大の建設工事であった。ここで生産された電力の大半は、ケベック電力公社（ハイドロ・ケベック）を通じて、ケベック州や米国に供給されている。

ラブラドルには、ローワー・チャーチル川のガル・アイランド急流やマスカラト瀑布など、未開発の電源も多い。そこで開発される予定の電力の一部は、いずれベル・アイル海峡の海底に掘られるトンネルを通じて、ニューファンドランド島に輸送されることになる。

地下資源や水力資源の重要性もさることながら、州経済の基盤は昔も今も漁業である。一九七七年にカナダ政府が経済専管水域を二百マイルに拡大したことに伴い、漁業の重要性はさらに高まった。ニューファンドランド近海では魚が増えつつあり、食糧供給、雇用、収入などの面から大きな期待が寄せられている。

可耕地が少ないため、農業生産は限られている。専業の農家はたった四百戸しかない。しかし、一九五〇年代以来、牛乳はほぼ自給自足しているし、養豚と養鶏はニューファンドランド島のアバロン半島全域で盛んだ。

林産業は、州経済に大きな位置を占め

る。ニューファンドランド島の大半とラブラドルの南部および中部は、黒えぞまつとバルサムモミ、かば、からまつ、バルサムポプラなどが生い茂っており、生産林は三万ヘクタールにおよぶ。

およそ五十七万八千の州住民のうち、ほとんどはイギリス南西部とアイルランド南部から一八世紀後半から一九世紀初めにかけて渡ってきた人々の子孫だ。人々は、いまでも、シェークスピアやチヨースー時代の言葉の混じったニューファンドランド独特の方言を話す。ニューファンドランド英語の辞書が出版されているほどである。

かつて、「島」の芸術家はカナダ本土へ移住することが多かったが、最近はその州内にとどまって活動する人が増えた。そのため、芸術活動はきわめて盛んだ。

ニューファンドランドは地理的にカナダ本土から離れているため、昔の英国や西ヨーロッパの伝統が根強く残っている。これも、この州の大きな特徴だ。ヨーロッパ人が築いた北米最古の町として知られる州都セント・ジョーンズは、幾度かの火災で焼失して一八〇〇年以前の建物などはほとんどないが、それでも岸辺から見ると、アングリカン・カテドラルやカトリック修道院、コロニアル・ビルディング、ニューファンドランド・ホテル、裁判所などの建物や街路などに、昔の英国やヨーロッパの色を濃く残している。人口わずか八万三千人だが、埠頭にはいろいろな国の漁船が旗をなびかせ、国際色を醸し出している。

ニューファンドランドにおける人口分布を決定したのは漁業であった。この分布は現在もあまり変わっていない。昔からの漁業基地であるアバロン半島とニューファンドランド北東部は、現在でも人口が集中しているところだ。（アバロン半島のランス・オー・メドーズは、十世紀末から十一世紀にかけてバイキングが訪れ、北米最古のヨーロッパ建築跡地と

プリンス・エドワード・アイランド州

『赤毛のアン』と

ポテトの島

して知られる。）
州都セント・ジョーンズ以外の「大きな町」には、アーセンシア（第二次大戦時に米国の海軍基地があった）、ブラセンシア、グラントフォールズ、ウインザー、ボナピスタ、コーナーブルックなどがあるが、ニューファンドランドの特徴は、湾や入江、アウトポートと呼ばれる何百もの小漁村が多いことだ。

首相 ジェームズ・リー（進歩保守党）
首都 シャーロットタウン
面積 五、六五七平方キロ
人口 一二五、〇〇〇人（八四年）
州民所得 十一億ドル（八四年推定）

『赤毛のアン』で知られるプリンス・エドワード・アイランドは、セント・ローレンス湾に浮かぶ面積五千七百平方キロ（淡路島の約十倍）の美しい島である。原住民のミクマック族インディアンはこの島を「波に抱かれた故郷」と呼んだ。伝説によると、神様は世界中の美しいところを描いたあと、いろいろな絵の具をかき混ぜたのに筆をひたし、この島を創造したという。一五四三年に島を発見した探検家ジャック・カルチエは、「目にすることのできる最も美しい島」と形容したといわれる。およそ二百年後、ピクトリア女王の父ケント公の名前にちなんでプリンス・エドワード・アイランドと名づけられた。観光案内のパンフレットは「湾に浮かぶ庭園」と称している。

長さ二百二十四キロ、幅は二・五キロから六十九キロというプリンス・エドワード・アイランド州（略称PEI）は、もちろんカナダ最小の州だ。人口も、十二万五千人しかない。州都シャーロットタウンの人口は、たった一万八千だ。一八六四年にはシャーロットタウンで建国会議が開かれ、六七年、カナダ連邦が結成される。しかし、PEIがカナダ連邦の仲間入りをするのは、六年後の一八七三年のことである。初代の連邦政府首相ジョン・A・マクドナルドの、大陸横断鉄道の敷設と対米保護関税の設置を柱とする「ナショナル・ポリシー」が、PEIの利益を害する、というのが連邦加入を遅らせた主な理由であった。当時も、現在と同じく、PEIの貿易はカナダの